

二宮尊徳 (金次郎)

ゆかりの陣屋

■ 桜町陣屋とは

桜町陣屋は、元禄12年(1699)小田原の大久保家を本家とする旗本の宇津家が、野州桜町4千石を治めるために設けた役所です。文政6年(1823)二宮金次郎は小田原藩主大久保忠真の命により、疲弊していた桜町領を復興するために相模国栢山村(神奈川県小田原市)からやってきました。以来26年間在陣して、桜町復興に成功し、名声をあげました。その後明治に陣屋は廃止となり、現在は茅葺屋根の陣屋の建物が残っています。昭和7年(1923)3月国指定文化財(史跡)となりました。

■ 東郷陣屋とは

東郷陣屋は寛政11年(1799)建造で、翌年最初の支配、岸本武太夫就美が家族で移住し、小児荒地起返・入百姓差入等の改革を実施しました。嘉永元年(1848)、東郷支配山内総左衛門が、兼任で真岡支配となり真岡陣屋に移った時(嘉永3年に代官に昇格)、代わりに東郷陣屋に入ったのが二宮金次郎でした。金次郎は山内氏に信頼され、熊倉分(現在の台町・田町・荒町等の一部)の荒地起返、穴川用水や長瀬堰・谷中堰の改修等の用水整備、台町の道路改修や、真岡陣屋の再建等の普請などに力を尽くしました。慶応4年(1868)、官軍の焼き討ちによって焼失、廃陣となりました。

■ 真岡陣屋とは

真岡陣屋は寛政9年(1797)竹垣三右衛門直温が小児荒地起返並入百姓差入、村柄立直仕法を実施するために建てられたもので、建坪は67坪でした(費用は幕府)。山内総左衛門董正は弘化5年(1848)に真岡・東郷両陣屋を統合する形で支配しました。嘉永4年(1851)2月に陣屋(御用達場一役所部分)が焼失し、建坪55坪に縮小して同年中に原類助と二宮金次郎が中心となって再建しました。慶応4年(1868)5月に再び焼失、廃陣となりました。平成13年2月真岡市指定文化財(史跡)となりました。

